

【平成 27 年度伊豆市一般会計当初予算】 158 億 8,900 万円 (前年度より 5 億 7,100 万円減)

平成 27 年度は、合併による特例措置終了に伴う段階的な地方交付税の減額時期に入ることを踏まえ、平成 21 年度以降増加傾向にあった予算額を 6 年ぶりに減額する緊縮予算となりました。

特例措置終了に伴う地方交付税の減額は、合併市町に配慮した算定方法の見直しにより多少の改善が図られるため、その減額は抑えられることになる模様ですが、平成 27 年度に実施される国勢調査により平成 28 年度の算定からその基礎となる人口が大幅に減少することは明らかであり、それらが交付税に反映されるためその影響は少なくないと思われまます。

【平成 26 年度一般会計補正予算 (第 6 回) のおもな事業】

“地方創生交付金事業”として、旧湯ヶ島小学校改修工事 (1,700 万円) 定住促進事業補助金の増額 (531 万円) 地方創生検討会議 (36 万 3,000 円)

総合戦略アクションプラン策定業務委託 (1,000 万円) 地域資源掘り起し業務委託 (1,200 万円) 販路拡大事業 (370 万円) 店舗リフォーム事業補助金 (500 万円) わくわく旅行券交付事業補助金 (5,000 万円) などです。

公衆無線 LAN 拠点施設整備 (5,091 万円) いわゆる Wi-Fi スポットを市内 13 カ所に整備し緊急時の通信・連絡手段の拡充 土肥南体育館改修工事 (800 万円) は地域づくり協議会の拠点づくりの事業です。

3 月議会

平成 27 年度当初予算決まる

小長谷順二通信

Vol. 10 号

小長谷順二 後援会事務所

伊豆市土肥 450-7

TEL/FAX 0558(98)0400

<http://konagayajunji.web.fc2.com/>

Email photo-ko@vcs.wbs.ne.jp

【平成 27 年度一般会計予算のおもな事業】

旧月ヶ瀬小跡地に建設される認定こども園建設に対する補助金 (3 億 110 万円)、同じく旧月ヶ瀬小跡地に建設される障害者通用施設建設に対する補助金 (1,450 万円) 修善寺温泉場地区への公衆無線 LAN 施設整備事業 (5,120 万円) 新し尿処理施設完成に伴う修善寺地区し尿処理プラント解体 (4 億 230 万円)、土肥地区衛生処理プラント解体 (2 億 800 万円) 土肥地区小中一貫校建設に向けた設計委託料 (3,370 万円) 新中学校整備に係る基本設計業務委託 (2,450 万円)。3 年継続の 2 年目を迎える光ファイバ網湯ヶ島局整備補助事業 (2 億 900 万円) 小土肥地区に設置予定の市内 3 つ目の津波避難塔建設事業 (1 億 2,600 万円) 小下田地区ヘリポート整備事業 (4,510 万円) などです。

2 月 13 日 (金) にグアム政府観光局は、グアム島恋人岬と土肥恋人岬の姉妹提携 25 周年を記念して、土肥恋人岬で記念調印式を行いました。レイ・テノリオ副知事は「恋人岬がきっかけとなり、グアムと土肥の交流が 25 年にもわたり続いていることを非常に嬉しく思います。」と述べました。翌日のバレンタインデーには、土肥の恋人岬のボードウォーク (新名: 手をつなぐみち) でリニューアルオープン式典が実施され、グアム副知事もテープカットに参加しました。式典終了後、富士山に抱かれた恋人岬先端で結婚式が行われ、式に参列した大勢の人が、新たに生まれ変わった恋人岬での結婚を祝いました。



【土肥恋人岬ボードウォーク完成式典】

3月23日(月)に伊豆市田代地区に建設していた汚泥再生処理センターの竣工式が行われました。

総額12億円を投じて建設された新施設は、鉄筋コンクリート地下1階地上3階建て、延べ床面積1,920平方メートル。

し尿処理能力は1日28キロリットルで、脱水汚泥は助燃剤として有効利用されます。

伊豆市のし尿施設は修善寺柏久保の清掃センター「し尿処理施設」と土肥横瀬の「土肥衛生プラント」の2施設ありましたが、建設から半世紀が経過し、いずれも老朽化が著しいことから、新年度に解体され、1つの施設で稼働します。



汚泥再生処理センター“ピュア・プラザ”

【1.広域一般廃棄物処理施設計画案】

一般質問

Q、新焼却施設ごみ処理量85t/日の算定根拠について。

A、両市の過去の実績値を参考に、可燃ごみ78t/日、災害ごみ1.3t/日、河川の除草2.7t/日、剪定枝2t/日、し尿処理施設汚泥1t/日で規模を決めています。

Q、焼却方式と熔融方式の利点・留意点について。

A、焼却方式(ストーカ)の利点は採用実績が多く安定性に優れていて、助燃剤の使用料が少なく済む。課題は焼却残渣である焼却灰等の最終処分の必要が残る事。熔融方式は助燃剤でコークスを使用し高温(1,500度)で熔融するため、焼却灰の発生を減らし、スラグやメタルの資源回収がおこなえるが、コスト面とスラグの安定的な有効利用が課題。

【2.ふるさと納税推進で活性化する地域づくり協議会】

Q、地域づくり協議会として自ら営業した時の支援策について。

A、地区指定をすることで頑張っていた地域づくり協議会に市を通してふるさと納税を還元する制度設計を行い、より集めやすい制度を作って行きたい。

Q、役所内に部・局を超えた「ふるさと納税チーム」を立ち上げる独自のシステム構築について。

A、特典の内容や手続きの見直しは行いますが、フルスピードで方向を変えることが出来ないのは特産品の販売合戦が本当に行政目的のあるべき姿なのか悩ましい反面、そのようなやり方で、3億、4億を集めている自治体もあるので、観光地であり、特産品の多い伊豆市がそれを行わない選択肢は無いので、そこは整理して行きますが、専門チームを作る前に伊豆市出身者に今まで以上にアクセスをして情報発信をし、地道ながらもふるさとを思っていただけの方を増やして行きたい。

小長谷順二

検索

ブログ更新中！！

小長谷順二 第9回 市政報告会開催

平成27年4月16日(木)

伊豆市土肥支所 4F会議室

PM 7時より